

# 人権研修ハンドブック

担当者の悩みや課題に応えるアイデア集

公益財団法人 兵庫県人権啓発協会

## はじめに

現在、私たちの日常生活における人権課題は、いじめや虐待、外国人や同和問題に関する差別事案などに加えて、インターネットによる人権侵害や東日本大震災における風評被害などこれまで以上に多様化、深刻化しています。

これらの多岐にわたる人権課題に適切に対応していくためには、私たち一人ひとりが様々な人権課題に対する正しい理解を一層深めるとともに、課題解決につながる実践力を身につけていくことが必要であり、人権研修のさらなる充実が望されます。

兵庫県では、平成13年3月に策定された「兵庫県人権教育及び啓発に関する総合推進指針」において、家庭や学校、地域、職場など、あらゆる場における人権教育及び啓発の推進が必要であることを示しています。また、平成16年度から「人権文化をすすめる県民運動」を各市町と一体となって展開しており、人権尊重が文化として定着し、県民だれもが互いの人権を認め共に生きる「共生社会」の実現をめざして啓発活動を進めているところです。

公益財団法人兵庫県人権啓発協会では、平成14年度に人権研修ハンドブックを作成し各市町における人権研修をご活用いただいておりますが、その後10年が経過し、各市町の人権啓発担当者から、地域学習会の在り方などについての悩みや課題が多く寄せられるところとなりました。このため平成24年度に県内の各市町における人権研修の実態把握を目的として全市町へのアンケート調査を実施し、その結果を報告書にとりまとめたところですが、その中では「参加者の固定化や減少化」「研修内容のマンネリ化」「研修テーマや講師の選定」などの項目が、共通の課題として浮き彫りになりました。

本書は、このアンケート調査の結果を踏まえ、それらの課題にどのような対処が可能であるかという視点で、具体的な実践例やアイデアを、各市町の人権啓発担当者に参画いただく当協会の研修専門委員の皆様にご協力いただきまとめたものです。本書をご活用いただくことにより、人権啓発担当者が研修を企画・運営していく上での良きヒントとなり、各市町における地域学習会や職場研修等の人権研修の充実に資することを願っています。

平成26年3月

公益財団法人 兵庫県人権啓発協会

## 全体の構成

このハンドブックは、各市町の人権啓発担当者が、それぞれの地域の状況や課題に合った人権研修（地域学習会や職場研修など）を企画・運営していく上で、参考となるような具体的な実践例やアイデアなどを提供するために作成しています。

全体は、2部構成です。

### 1 研修会の流れ

人権研修全般に関する基本的事項を確認します。

- ☆ 研修の段階を「準備」⇒「実施」⇒「実施後」の流れに沿って整理しています。
- ☆ 各段階における留意点を「研修のねらいが、はっきりしていますか」など、疑問形で示しています。
- ☆ 各留意点に続いて、「□ 日ごろから人権に関する様々な情報を収集している」など、チェック欄を設けています。
- ☆ 各段階の最後に、「まとめ」として、特に大切にしたいことをまとめています。

### 2 課題解決に向けて

人権研修で担当者が感じている課題に関するポイントや具体例を紹介します。

- ☆ はじめに、読み進めていく上で知っておいていただきたい各ページの構成について、「使い方のポイント」で説明しています。
- ☆ 続いて、人権研修で担当者が感じている課題を10項目あげ、課題別に「現状」及び「課題を解決するための効果的なポイント」を示し、各ポイントに応じた「実践例」や「アイデア」などを紹介しています。

なお、このハンドブックの内容は、（公財）兵庫県人権啓発協会が実施した「市町における人権研修実施状況に関するアンケート」（平成24年度）の結果や、「平成25年度 市町人権啓発担当職員等研修」における協議内容、当協会の研修専門委員が作成した実践例やアイデア案などをもとに、研修専門委員会で検討を重ね、課題の解決により適した実践や工夫等を紹介するという視点で編集しました。

# 目 次

はじめに

全体の構成

1	研修会の流れ — 人権研修全般に関する基本的事項 —	
	準備	1
	実施	3
	実施後	5
2	課題解決に向けて — 課題解決に関するポイントや具体例 —	
	使い方のポイント	7
	課題 1 参加者の減少	9
	課題 2 参加者の固定化	13
	課題 3 内容のマンネリ化	17
	課題 4 テーマの偏り	21
	課題 5 堅いイメージ	25
	課題 6 住民主体の会	29
	課題 7 効果の測定	33
	課題 8 リーダーの養成	37
	課題 9 講師の選定	40
	課題 10 効果的な広報	43
	研修専門委員会名簿	46

# 1 研修会の流れ

計画や運営面の基本的な内容について、「準備」「実施」「実施後」の流れに沿って整理しています。

各項目の□に、☑を記入しながらチェックしてみましょう。



## 準備

### 1 研修のねらいが、はっきりしていますか。

- 日ごろから人権に関する様々な情報を収集している。
- 参加者の意識や地域の実情を把握している。
- 参加者にとって何が必要か、具体的で実現できそうな目標を設定している。

### 2 研修内容は、参加者が知りたいことですか。

- 参加者が自分自身の生活や仕事との結びつきを考えられるような内容にしている。
- 研修終了後、実践意欲を喚起したり、次の研修へ発展するような工夫をしている。

#### 職場研修の例

対象	人権相談の担当者
テーマ	相談者の気持ちや意見を大切にした対応について
内容	事例検討、ロールプレイ

仕事や生活に直結したテーマを設定する



参 加 者 の 関 心 が 高 ま る

### 3 実施時期や時間、場所は、参加者に無理のない設定ですか。

- 内容、手法、回数、実施時期などを決め、「年間研修計画」を立てている。
- 地域や職場などの実情、実態に応じた計画を立てている。

### 4 指導者や講師は、ねらいや内容の点から適任ですか。

- (1) 研修講師を選定する。
- 研修のねらい、方法、時間、予算を確認する。
  - 内部講師にするか、外部講師にするかを決める。
  - 講師候補者をリストアップする。
  - 地域の人材の活用も考慮に入れる。
  - 講師としてこれまでの実績を確認する（経歴、講演歴、著書など）。

(2) 講師に依頼内容を伝える。

- 依頼側の組織・団体等の概要。
- 研修のねらい等（研修名、ねらい、日時、会場、研修方法、経費など）。
- 参加者の情報（所属、年齢層、監督職や新規採用などの階層、人数など）。

5

### 研修方法は、講義やビデオ視聴、参加型学習など参加者や内容に合わせて決めていますか。

- それぞれの地域や職場などの実態に合った方法で実施するために、研修の規模、地域性、参加者の人権に関する学習体験、ニーズ等を把握している。
- テーマや対象などによって、様々な手法を使い分ける、あるいは数種を組み合わせるなどの工夫をしている。

- ・講義
- ・ビデオ・映画などの上映
- ・ポスター・パネルの掲出
- ・グループ討議
- ・フィールドワーク
- ・参加型学習
- ・資料配布による学習
- ・外部研修への参加

（公財）兵庫県人権啓発協会では、研修会などで活用できる人権啓発ビデオの販売・貸出や人権啓発パネルの貸出を行っています。  
詳細は、当協会のホームページをご覧ください。

[兵庫県人権啓発協会](#)

検索

6

### 資料や機器等の確認ができますか。

- 参加者への連絡（要領や会場案内図など）や講師との事前打合せを、余裕をもって行っている。
- 手話通訳者等の要否など、参加者に関する情報が確認できている。
- 使用テキストの決定と教材・資料の準備ができている。
- 当日突然調子が悪くなるということのないように、マイク、VTR、プロジェクターなどの機器類の事前点検を行っている。
- 会場の机や椅子などの準備ができている。

7

### 昨年度の改善点を活かしていますか。

- 研修を充実させるために、これまでの研修の成果や課題をフィードバックできている。

## まとめ

- 効果的な学習となるための最大のポイントは、**ねらいの明確さ**です。学習内容や講師選択は、しっかりととしたねらいがなければ成り立ちません。
- 事前に講師と打合せを行い、**担当者の考え方**を十分に伝えておきましょう。
- 話し合いをする場合、話しやすい人数設定や雰囲気づくりなど、**班分けへの配慮**とともに**テーマ設定**が重要です。身近で、だれもが知りたいと感じているテーマを示すことで、意見が活発に出され、**充実した気づきの場**となります。

## 実 施

### 1 スムーズな進行をめざして、シナリオを作成するなど工夫していますか。

#### 準備

- ・スタッフの事前打合せ
- ・会場の確認（机や椅子の配置、時計・機器類・空調設備など）
- ・配布資料の確認（次第、講義資料、アンケートなど）
- ・名簿の確認（参加者全体、班別など事前に作成）
- ・講師への対応（送迎、控室の確保、日程・内容・録音や撮影等の確認、経費関係書類の準備など）

#### 受付

- ・参加者が分かりやすい受付方法（会場への誘導、受付表示、対象別の案内など）
- ・遅刻や欠席、当日参加への対応

#### 開講式

- ・シナリオによる進行
- ・あいさつ文（事前に作成）
- ・研修のねらい、日程、配布資料の再確認
- ・アンケートの依頼

#### 講義など

- ・講師紹介（プロフィールの事前確認）
- ・機器使用等の補助（プロジェクト、照明の操作など）
- ・時間配分の確認、休憩時間の設定（必要に応じて）
- ・まとめ（質疑応答、お礼のことば）
- ・水、おしぼり等の準備



#### 閉講式

- ・あいさつ文（必要に応じて）
- ・アンケートの再依頼、回収
- ・次の予告
- ・他事業の紹介

#### 終了後の整理

- ・会場、機器類の片づけ・整理

### 2 話し合いで使うワークシートは、参加者が考えを整理するために活用していますか。

- 自分の考えを整理し、話し合いをスムーズに進めるための資料として活用している。
- 書くこと、話すことに対する抵抗を感じる人も安心して参加できるように配慮している。

### 3 話し合う班は5名程度と少人数にし、話しやすい雰囲気づくりを心がけていますか。

- 簡単なゲームを取り入れるなど、話しやすい雰囲気を作るよう心がけている。
- アイスブレーキングを取り入れた班分けなど、具体的な方法を事前に考えている。
- 時間がない場合は班カードを配布するなど、時間短縮を図っている。

**4****プライバシー厳守や他者を批判しないなど、話し合う際のルールが共有できていますか。**

- 話し合いでは、良い・悪いの判断をするのではなく、お互いの考えをしっかり聞き合う場であることを確認している。
- 発言したことは研修会の場だけに留めるなど、個人のプライバシーを侵害することのないように気をつけている。

**5****実施中に参加者の様子を観察するなど、評価の視点を取り入れていますか。**

- 研修の効果を測るために、途中で参加者の反応を観察している。
  - ・注目している
  - ・居眠りしている
  - ・メモを取っている
  - ・うなずいている
  - ・質問する など

**6****アンケートに、理解の程度や内容に関する項目、自由記述などを入れていますか。**

- 研修後、アンケート調査やレポート提出などを実施して、次の研修に継続・発展させている。
- 質問は、理解度、時間の長さ、資料等の分かりやすさ、手法の是非、研修受講前後の比較など、いくつかの項目に分けている。
- 文章表現で回答してもらえるように、負担にならない程度で感想・意見欄を設けている。
- 研修後、よかった点や反省点、改善点等を確認している。

**まとめ**

- 研修会を成功させるには、**全体の流れがイメージできていることが重要です**。受付や挨拶、講演や討論の質疑応答などの時間配分も含めて、計画に沿って進めていきましょう。
- 話し合いをする場合、参加者同士の関わりによって**新たな気づき**が生まれることや、学び合った成果を発表し合うといった**振り返りの機会をもつことが大切です**。
- 参加者が、聞く・見る・話す・作る、など**変化のある活動**ができるよう心がけましょう。

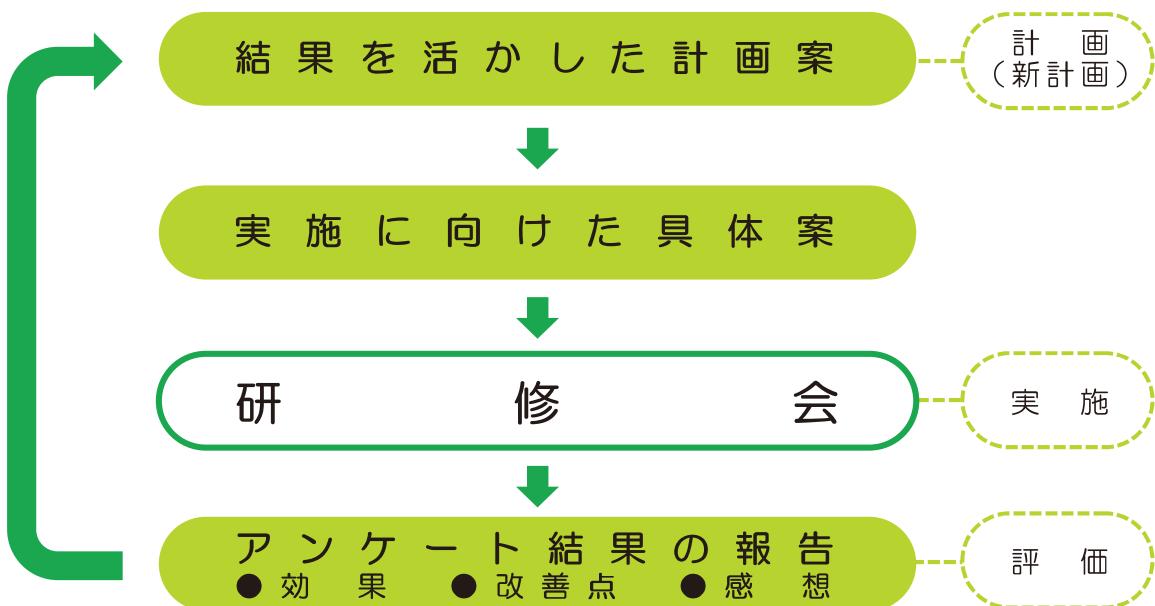
## 実施後

### 1 アンケート結果を、効果があった点と改善点とに分けてまとめていますか。

- できるだけ早期に報告書を作成している（講師への礼状も、必要に応じて）。
- 集計結果から各項目の割合や平均を出すなどして、これまでの研修会の結果と比較している。
- 効果があった点や改善点などを確認している。

### 2 アンケート結果をもとに、次回の研修会に向けた計画案を作成していますか。

- 次の研修につなげるよう、「計画→実施→評価→新計画」という流れに沿って進めている。
- 研修中の観察や研修直後のアンケート調査の実施、その後の追跡調査など、評価の仕方を工夫している。
  - ・追跡調査…研修実施から数ヶ月後に、「研修の内容を活かしたかどうか」「知りたい点はないか」など、その後の生活の中で分かってきたことや感じたことなどについて質問する。



### まとめ

- 参加者にとって、分かりやすく、受け入れやすい内容と方法を考えながら、より幅広い研修を実施するためには、**常に改善していくこうという気持ちをもつことが大切です。**
- 研修効果の測定のねらいは、改善すべき点を知るとともに、効果があった点を自覚して、**より一層それを伸ばすことにあります。**
- 効果があった点や改善点など、**知りたいことが具体的に分かるアンケート調査**を実施することが必要です。

## 参加者の視点を大切に

### 人権を身近なものと感じることができたか。

人権というと、難しいこと、堅苦しいこと、普段の生活から離れた「非日常的なこと」と捉えられがちです。研修を「人権ってなんだろう」と、人権を考えるきっかけづくりの場とすることが大切です。参加者が、人権は日々の暮らしの中の何気ない人ととの関わりの中にあり身近なもの、と感じられるようになるための工夫や雰囲気づくりが必要です。

### 新たな気づきがあったか。

研修の中で感じる固定観念や思い込みなど、自分への気づきを大切にしましょう。身近な事例をテーマとして選び、新しい話題やニュース等を参考にして具体的な事例を取り上げると、参加者の共通認識が得られ、親しみや気づきを促すきっかけとなります。



### 学んだことが日常生活につながっているか。

兵庫県では、平成16年度から県内の各市町と一緒に「人権文化をすすめる県民運動」を推進しています。

人権文化とは、お互いの人権を尊重し、感じたり、考えたり、行動したりすることが日常生活の中で自然に定着している有り様のことです。例えば混んだ電車やバスの中で、お年寄りや体の不自由な人などに出会ったとき、相手の人権を尊重し自然に声をかけたり、席を譲る行動を取ったりすることで、決して難しいことではありません。

研修での学びや気づきが、そのような具体的な言動につながっていくことが大切です。



## 2 課題解決に向けて

ここからは、人権研修で担当者が感じている課題への対応策を紹介しています。具体的な内容に入る前に、ここでは、課題についてどのようにまとめたか、その整理内容を紹介し、本書の使い方を説明しています。

### 使い方のポイント

## 課題7 効果の測定

いろんな評価方法を  
知りたい

### 現状

#### 各市町アンケート調査の結果から

- ・人権研修は人の意識に働きかける事業であり、研修の効果を測る十分な「ものさし」がないことが課題となっている。
- ・市民意識調査の調査項目の中から「指標」を設定し「目標値」を設けるなど、研修の効果を測っていく必要があると感じている。

(公財)兵庫県人権啓発協会が平成24年度に実施した「市町における人権研修実施状況に関するアンケート」の結果から、人権研修を行っていく上で、担当者が感じている課題を10項目(課題1～課題10)あげ、意見やデータを紹介しています。詳しくは、当協会のホームページをご覧ください。  
<http://www.hyogo-jinken.or.jp/files/research/report.pdf>

### 課題を解決するための効果的なポイント

#### ●地域の課題

上記の「現状」を踏まえて、各課題の解決にはどのような考え方や取組などが必要か、そのポイントについて簡単にまとめています。

#### ●アンケートの実施方法や内容を再検討する

ノイズノイズ

(3ページ)

## 実践例11 地域の課題に合った評価方法や分析方法を考える

**準備**

### 人権に関する研修会等

『人権に関する研修会等』の工夫点や全体の流れなどを紹介しています。  
現するために、「地域社会において人権教育・啓発活動を充実させる」が46.6%と1位になった。  
そこで、人権教育・啓発活動をより充実させるために、効果を測る評価方法を改善した。

### 「人権を身近に感じ、関心をもつこと」を目標に

評価方法の改善にあたり、目標を明確にした。意識調査からは、人権や差別問題に対する意識は「常に関心がある」と「まあ関心がある」と答えた人は

## 参考資料

### 参加者アンケートの例

「実践例」や「アイデア」に関する資料を紹介しています。

全ての項目に「自由回答欄」を設定した。  
裏面にも感想欄を印刷し、幅広い意見を収集した。

#### 新温泉町人権を考えるつどい アンケート用紙

本日は、新温泉町人権を考えるつどいにご参加いただきありがとうございます。今後の人権を考えるつどい並びに人権啓発活動等をより充実したものにするために、参加いただきました皆様のご意見、ご感想を賜りたく以下のアンケートにご協力いただきますようお願い申し上げます。なお、頂戴いたしましたご意見、ご感想は、啓発紙等に掲載させていただくこともありますのであらかじめご了承ください。

(あてはまるものに○をつけてください。)

性別 女性 男性

年代

10代以下 20代 30代 40代 50代 60代 70代 80代 90代以上

## アイデア

### アンケート調査の実施

アンケート調査の方

「効果的なポイント」の具体的な内容として、「実践例」とは違い、課題の解決につながる様々なアイデアをあげています。

質問内容や項目が予め設定されたインタビューや面接などを実施する。

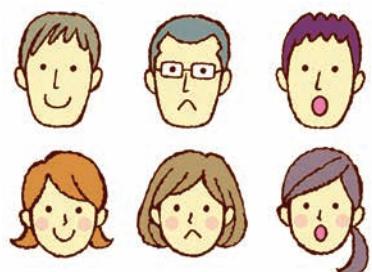
定員と比較した参加率や再参加率、参加者数の経年変化、広報の方法や回数などの客観的なデータを活用する。

講師以外に事務局や他の講師にも研修を観察してもらい、事後に検討会を開く。

参加者と実施者に第三者を交えて、評価に関する検討会を開く。

# 課題 1 参加者の減少

もっとたくさんの人間に  
参加してほしい



## 現 状

### 各市町アンケート調査の結果から

- ・参加者を自主的に募ることが難しい。
- ・強く呼びかけないと集まらないかもしれないという不安感がある。
- ・内容的に楽しいものばかりではないので、各種団体への参加依頼が中心になってしまふ。
- ・継続して参加する人が少ない。
- ・都市と違い人口も少なく兼業農家が多いなど時間的な余裕がないため、人集めに苦労する。



## 課題を解決するための効果的なポイント

- 時事に合った内容で親しみのある研修会にする

➡ 実践例 1  
(10ページ)

- 複数のメニューを同時に開催する

➡ 実践例 2  
(11ページ)

- 各団体のネットワークを活用する

➡ アイデア  
(12ページ)

# 実践例1 時事に合った内容で親しみのある研修会にする

準備

展開

まとめ・参考資料

## 綿密な打合せをする

マーチン・ルーサー・キング牧師が「私には夢がある」と演説したワシントン大行進から50年にあたる年に、人種差別問題をテーマにした人権セミナーを企画した。より多くの方々に参加していただくために「JAZZ」と結びつけた。

JAZZは、19世紀末から20世紀初頭にかけてアメリカ南部で生まれたとされる。アフリカ系アメリカ人の独特的な音楽文化と西洋音楽の文化が融合して生まれたことから、講師との相談の結果、テーマを「魅せられた解放魂～融合するジャズの精神を歌う～」とした。

## 熟考を繰り返して決めた曲目

講師は、地元新温泉町出身のJAZZボーカリストのnaoさんである。彼女が渡米して感じた人種差別の現状の話とともに、アメリカから感じ取った力強さや、JAZZの様々な文化と融合していく魅力を伝えるため、次の曲目を選定した。

- ・ Do you know what it means to miss New Orleans
- ・ What a wonderful world
- ・ Strange Fruit
- ・ あなたがいてくれるから

## 参加型の内容も盛り込みながら

パーカッション担当の講師にも、参加者が身体を楽器にして参加できる「参加体験型」の時間を設定していただいた。また、様々な国の打楽器についても説明していただき、参加者にとっては多くの視点で多文化共生社会について学ぶセミナーとなった。



**人権セミナーの広報**

町政のうごきから

平成26年度 人権セミナー  
「マンサード形式でジャズ音楽をテーマに人権学習」

講師は、地元新温泉町出身のJAZZボーカリストのnaoさんである。彼女が渡米して感じた人種差別の現状の話とともに、アメリカから感じ取った力強さや、JAZZの様々な文化と融合していく魅力を伝えるため、次の曲目を選定した。

・ Do you know what it means to miss New Orleans  
・ What a wonderful world  
・ Strange Fruit  
・ あなたがいてくれるから

パーカッション担当の講師にも、参加者が身体を楽器にして参加できる「参加体験型」の時間を設定していただいた。また、様々な国の打楽器についても説明していただき、参加者にとっては多くの視点で多文化共生社会について学ぶセミナーとなった。

課題1  
参加者の減少課題2  
参加者の固定化課題3  
内容のマンネリ化課題4  
テーマの偏り課題5  
堅いイメージ課題6  
住民主体の会課題7  
効果の測定課題8  
リーダーの養成課題9  
講師の選定課題10  
効果的な広報

## 実践例2 複数のメニューを同時に開催する

**準備**

### 連携する

毎年8月に人権講演会と題して大人向けの人権講演会を開催してきたが、夏休みを利用して親子で会場に来ていただき、大人には従来の人権講演会、子どもたちには託児を兼ねた学びの場「養父市人権講演会子どもの部　こども命のひろば」を設定した。

養父市の人権推進課と教育委員会が連携し、ポスター・チラシ作成、広報等の準備にあたった。

**展開**

### しっかりと話を聞く

テーマは「未来を担う子どもたちへ～動物とふれあうことから学ぶ友だちづくり～」と題して、移動動物園 ZOOKISS 園長の島田直明さんに動物とともに来ていただいた。

動物の生態を紹介しながら、動物の気持ちを考えながらかわいがることは、友だちと接するときの気持ちと同じであることを、分かりやすく話された。子どもたちもしっかりと話を聞くことができた。



### 動物とふれあう

ひよこ、うさぎ、へビなどの動物に実際に触れる機会をもち、動物の温かみや命の鼓動を感じる機会となった。その後bingo大会を行った。



### ともに喜ぶ

人権講演会で学び、迎えに来た保護者と「今日はこんなことしたよ」と生き生きと話す子ども。どちらも笑顔で、喜んでいただけたと確信している。

**まとめ**

#### 小学生の感想

- ・お話を聞いて、動物だって人と同じ、生き物は生き物の心・気持ちをもっているんだなと思いました。
- ・あまり見たことのない動物とふれあうことができて、いい体験になりました。
- ・とてもいい話をありがとうございました。かわいい動物ともふれあえて、とても楽しかったです。

#### 保護者の感想

- ・温かな笑顔と眼差しで子ども達に語ってくださいり、島田さんの温かなメッセージが心にストレートに伝わってきました。

## アイデア

### ネットワークの活用

自治会、子ども会、PTA、高齢者や女性の団体、各種協議会などと共同で開催し、参加を呼びかける。

一つの自治会だけでなく、複数の自治会が集まり合同で開催する。

防災や減災、防犯、救命救急など、各団体が行う研修会や総会などと併せて実施する。

地域の祭りやイベント、学校の文化祭や行事、高齢者大学や公民館の講座など、様々な集まりの場に積極的に加わる。

子どもはその保護者、高齢者はその子や孫、女性は友人や家族などと一緒に参加できる内容を工夫し、「口コミ」で参加を呼びかける。

### 研修内容の見直し

参加者がより出席しやすい時期、時間帯、曜日、場所を再検討する。  
(事前にアンケートなどを行い、参加者のニーズを把握した上で修正していく)

時 期	上半期 ←→ 下半期	時間帯	午 前 ←→ 午 後 ←→ 夜
曜 日	平 日 ←→ 休 日	場 所	設備 (バリアフリーなど)、交通の便

会場数や実施回数を複数にし、都合のよい日程や会場を選んでもらえるようにする。

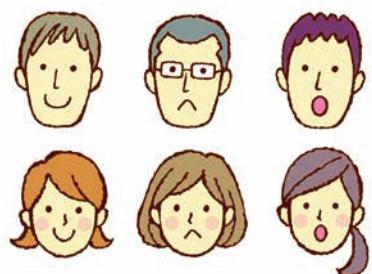
地域のイベントや学校行事と重ならないよう関係機関に確認する。

## 効果

- 各団体がもっているネットワークを活かし、より確実に案内でき、参加者増につながる。
- 他団体と共にすることで、今まで人権研修に参加しなかった人に対して、人権の立場からの啓発・学習が可能になる。
- 地域の祭りやイベント等への参加は、人権に関心が高くない人ともつながる機会となるため、啓発活動の広がりが期待できる。ただし、人権の視点が薄くなりすぎないよう留意する必要がある。
- 参加者が出席しやすい条件を整えることで、抵抗感を減らすことができるため、参加の意欲につながりやすい。

## 課題 2 参加者の固定化

いろんな世代の人に  
参加してほしい



### 現 状

#### 各市町アンケート調査の結果から

- ・高齢者や地域リーダーには学習の機会が多いが、他の世代の参加や機会が少ない。
- ・参加する人は参加しているが、しない人は全くしないという二極分化が起こっている。
- ・参加依頼は自治会を中心に行っているため、参加者が同じメンバーとなる傾向がある。
- ・参加者が各種団体の役員などに固定されており、広く一般市民の方に来ていただくことが難しい。
- ・毎年同じ人か過去に参加したことのある人が多く、新規の参加者を増やすなくてはならない。また、若い世代、特に20～30歳代の参加者が少ない。



### 課題を解決するための効果的なポイント

- 他団体との共催により参加者層を広げる

→ 実践例3  
(14ページ)

- 子育て世代が参加しやすい内容を企画する

→ 実践例4  
(15ページ)

- 他団体と連携し異なった世代の交流を図る

→ アイデア  
(16ページ)

		課題1 参加者の減少
		課題2 参加者の固定化
		課題3 内容のマンネリ化
		課題4 テーマの偏り
		課題5 堅いイメージ
		課題6 住民主体の会
		課題7 効果の測定
		課題8 リーダーの養成
		課題9 講師の選定
		課題10 効果的な広報
<b>準備</b>	<b>ともに創りあげる喜びを感じる</b>  同一小学校区にある保育園（所）と小野市が合同で、児童とその保護者を対象にした人権交流会及び講演会を開催している。 園（所）ごとに披露するダンスや園（所）が協力して行うバルーン演技「勇気100%」は、事前に練習を積んで参加している。	
<b>展開</b>	<b>親子活動で地域のきずなを深める</b>  「親子活動と友だちづくり」をテーマに、あそびの工房もくもく屋事務局長の田川雅規さんに講演をいただいた。 親子でゲームを行うことで、違う保育園に通う友だちと次第に仲良くなったり、保護者同士もふれあったりしながら、子どもも大人も楽しいひと時を過ごした。	
<b>まとめ</b>	<b>思いやりや優しさを地域に広げる</b>  人形劇は、子どもたちの成長を願いつつ、「思いやり」「人としての優しさ」をみんなで考える内容で、親子とも人権について考え、人と人のつながりを感じるいい機会になった。	
	<b>人の輪を未来に生かす</b>  一緒に汗を流し、一緒に人権について考えた子どもたちは、次年度同じ小学校に通う。同じ地域に住む仲間として、このセミナーで育てた思いやりの心や絆は将来に向け、小野市が推進している「心の輪づくり」につながっている。	
	<b>実施者の報告より</b>  第1部の子どもたちのダンスと演技発表では、みんな元気いっぱいで、見ている保護者もとても元気になりました。特にバルーン演技では「もっと強く」「しゃがんで！」などの子ども同士の声のかけ合いもあり、つながりを感じました。 第2部の田川ショーでは、親子、他の保育園児やその親との交流もあって、笑いが絶えませんでした。また、人形劇でモラルやマナーを学べたことは保護者にも好評でした。	

## 実践例4 子育て世代が参加しやすい内容を企画する

準備

展開

まとめ

### 子どもと保護者が参加できる企画

日頃から各自治会の協力を得ながら地域の学習会を実施しているが、若い世代特に子育て世代が参加しやすいように研修会の内容を企画し、色々な組織と連携して参加を呼びかける。

<たつの市教育委員会>

#### 1 企画

人権啓発映画「大地の母 きくゑ」の視聴と、映画の中に出てくるうどん作りを組み合わせた学習会を企画する。

#### 2 連携

各地区の「子育てつどいの広場」や幼稚園、小学校と連携し、就学前の子育て世代の保護者からPTAを中心に参加者を募る。

#### 3 実施

ふれあい交流うどん作り

##### 参加者の感想

- ・ 映画や話を聞いて、きくゑさんがうどん作りをされている意味が分かった。親子でうどん作りをしてとても楽しかったし、うどんもおいしかった。
- ・ 以前に学校で経験しているからか、粉をこねたり伸ばしたりする我が子の姿を見て、成長しているなと感じ、うれしくなりました。家に帰ってからほめてやりたいと思います。



<各自治会>

#### 1 企画

人権教育アシスタント（人権研修に関する地域のリーダー）などに、人権啓発ビデオ「桃香の自由帳」を使用した親子で参加できる学習会例などを紹介し、各自治会で企画してもらう。

#### 2 連携

子ども会の組織を通じて、親子での参加を呼びかける。

#### 3 実施

自治会住民学習会

##### 自治会長の感想

- ・ 子どもも一緒に見られるビデオだと子ども会に参加依頼すると、小・中学生が来てくれそうだったので、役員さんが飲み物などの準備をしてくれた。子ども達が参加してくれるだけで、明るい雰囲気になったように思う。



課題1  
参加者の減少課題2  
参加者の固定化課題3  
内容のマンネリ化課題4  
テーマの偏り課題5  
堅いイメージ課題6  
住民主体の会課題7  
効果の測定課題8  
リーダーの養成課題9  
講師の選定課題10  
効果的な広報

## アイデア

H23南須磨公民館～人権講座～

手話通訳付です

### オンリー ゆうコンサート イン 南須磨公民館

#### ～みんなで楽しむ音楽会～

40代で視力を失った双子の浦野兄弟…視力を失っていく怖さ、現実を受け入れる勇気、そこからみえてきた「音楽」という希望…「健常者と障がい者がともに集い、気軽に音楽を楽しめるような空間をつくりたい」と願う二人の夢がつまったコンサートです。障がいのある人もない人も音楽を通して、つながりの輪を大きくしていきましょう

1. 日時 12月5日(月)10:50～12:20 開場10:30～

2. 場所 南須磨公民館 体育室

3. 出演者 NPO法人ゆう工房の皆さん

盲導犬「テラ」はいつも一緒に！

#### 浦野兄弟

浦野龍二・龍也兄弟は视觉障害の双子の兄弟です。  
病気で40代に視力を失いました。つらくて苦しい  
時を乗り越え、ギターデュオで活躍しています。



#### ファニーおばさんと歌声広場

音楽療法とともに30年、オリジナリティ豊かな内容で  
多くの人を楽しませてくれるファニーおばさん(小林敏子)  
ファニー広場に「この指とまれ！」



#### 申し込み

【期間】11月7日(月)～当日まで 【定員】100名 《先着順》  
※参加希望者は、電話・FAXまたは南須磨公民館の上、公民館事務室へお申し込みください。

南須磨公民館 (TEL735-2770 FAX735-2782)

## 参加しやすい環境づくり

休日や平日の夜間の開催

市町職員の人権研修にも位置づける

要約筆記、磁気誘導ループ等の準備、副音声つき映画の選定

バリアフリー化された施設

地元の一人暮らしの方や障害のある方の送迎

ボランティアによる託児所の開設

## 異なった世代が参加できる企画

親子での参加を前提とした行事

幼稚園や保育園（所）などとの連携

高齢者や女性の団体等との共催

子ども会や地域の行事への出前研修

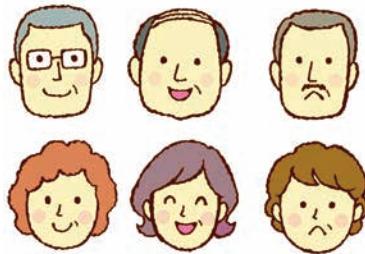
高校生による司会進行やボランティア活動の発表会などへの参加

## 効果

- 参加したくてもできなかつた人の掘り起こしが期待できる。
- 子どもが参加することで親子が一緒に人権について考えることができ、また高齢者が参加することで世代間の交流にもつながる。

## 課題 3 内容のマンネリ化

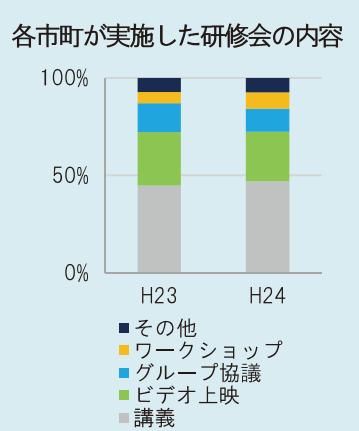
これまでとは違う  
研修会にしたい



### 現 状

#### 各市町アンケート調査の結果から

- ・啓発映画や講師の話を熱心に見たり、聴いたりはしているが、自ら積極的に発言しようとする様子がうかがえない。
- ・誰もが気軽に参加できる新たな学習会の形や運営について、検討が必要である。
- ・課題解決の視点を取り入れた、地域や生き方について考える学習会へと、変えていかなければならぬ。
- ・研修会名の9割が前年度と同様となっており、内容では講義が全体の4割を占めている。



### 課題を解決するための効果的なポイント

- 講話からフィールドワークへつなげる

→ 実践例5

(18ページ)

- 研修方法の組合せを工夫する

→ アイデア

(20ページ)

- 周囲との情報交換を大切にして活かす

→ アイデア

(20ページ)

## 実践例5 講話からフィールドワークへつなげる

### 準備

#### テーマ設定の工夫とフィールドワークの調整

毎回様々なテーマで行っていた加古川市の人権啓発セミナーにおいて、研修回数が少ない人権課題「犯罪被害者の人権」と「刑を終えた人の人権」について見識を深めていくことを目的とし、「法と人権」というテーマを設定して開催した。

テーマ設定後は、それぞれの人権課題に関わる施設や関係者と、フィールドワーク・講師派遣等の調整を行った。

#### セミナーの実施

参加者を広報誌などで募り、講話2回、フィールドワーク2回の計4回を実施した。

##### 第1回 講話「犯罪被害者の人権」

市原 千代子さん（NPO法人おかやま犯罪被害者サポート・ファミリーズ）

##### 第2回 講話「更生保護の役割と犯罪や非行をした人の社会復帰」

野村 福二さん（神戸保護観察所）

##### 第3回 フィールドワーク：播磨社会復帰促進センター

只川 晃一さん（播磨社会復帰促進センター）

##### 第4回 フィールドワーク：神戸地方裁判所

藤井 章仁さん（神戸地方裁判所）

講演では、実際に犯罪被害者の家族の方を講師として招き、報道は一時だが、残された家族は苦しみ続けることを伝えていただいた。また、保護観察の視点から、罪を犯した少年や大人が社会復帰する難しさについて教えていただいた。

フィールドワークでは、実際に受刑者が社会復帰に向けてどんな取組を行っているのか見学したり、施設の課題について話を伺ったりした。また、最後に実際の裁判を見学し 刑の確定を左右する裁判員制度について考える場を設けた。



### 展開

#### 人権課題に対する学び

参加者は毎回40人以上であり、どの回の感想においても、「初めて知った」「勉強になった」と答えた人の割合が90%以上であった。

これまで、女性の人権や同和問題、子どもの人権などが人権啓発セミナーの主流であったが、新たなテーマ設定を行い取り組んだことにより、参加者にとって大変満足のいく（学びの多い）研修であったとの声がたくさん寄せられた。

### まとめ

課題1  
参加者の減少

課題2  
参加者の固定化

課題3  
内容のマンネリ化

課題4  
テーマの偏り

課題5  
堅いイメージ

課題6  
住民主体の会

課題7  
効果の測定

課題8  
リーダーの養成

課題9  
講師の選定

課題10  
効果的な広報

## 参考資料

### フィールドワーク 播磨社会復帰促進センター



位置情報  
(施設のパンフレットより)

参加者の感想より  
非常によかったです。刑務所における人権が注視され、改善されてきたとは聞いていたが、今回のフィールドワークで実感した。人権への配慮が確実にあることが受刑者にも



施設の目的や課題についての説明

も実感でき、一般社会に戻るときにも大いなる示唆となると思う。社会に復帰するにあたって、刑務官の厳しくも人権感覚あふれる関わりは極めて重要だと思う。同時に私達の関心も向けられるべきだし、何らかの支援ができたらいいと思う。

### フィールドワーク 神戸地方裁判所

#### 参加者の感想より

これまで、映画やテレビの映像から「罪人を追及する場」的なイメージを勝手にもっていましたが、実際はかなり違うな、というのが正直な感想です。原告にも被告にも同等に接しようとすると、裁判所職員の姿勢が好印象でした。結果次第で人の人生が大きく変わるために、過ちが許されない厳しい職場で様々なご苦労や気遣いをされていることがひしひしと伝わる、大変有意義な研修でした。



法廷見学の様子



裁判員制度についての説明

## 全体を通して

#### 市民の感想より

どの回もすごく勉強になりました。特にフィールドワークは色々なことを考えさせられ、講演も心に響きました。またぜひ参加させていただきたいと思います。

#### 人権擁護委員の感想より

ふだんの生活の中では経験できない内容で、社会生活を安全に送ることができるような仕組（組織）が理解できました。今後の活動に活かしていきたいと思います。

#### 企業関係者の感想より

主催者と参加者との間に双方向のコミュニケーションがあり、不思議と一体感を感じました。市の人権推進課の方々が普段から地道に活動されている事が実感できました。

課題1  
参加者の減少課題2  
参加者の固定化課題3  
内容のマンネリ化課題4  
テーマの偏り課題5  
堅いイメージ課題6  
住民主体の会課題7  
効果の測定課題8  
リーダーの養成課題9  
講師の選定課題10  
効果的な広報

## アイデア

### 組合せを工夫する

一つの研修の手法に限定するのではなく、組み合わせて複合的に用いる方法を考える。

講義を研修の軸としながら、講義前にテーマに関する絵本の読み聞かせをしたり、講義後に内容についての討論を入れたりする。

ビデオを見るだけでなく、その内容やテーマなどに関する資料を提示したり活用ガイドを用いたりして、参加型学習につなげていく。

話しやすい少人数グループでの進行、導入部分でのゲームやクラフトの活用など、参加者の抵抗感を和らげるよう工夫する。

当事者による語り部活動など、体験を継承する研修会を実施する。

### 情報交換・収集を活かす

他の部署や市町とチラシ等により情報を交換し、固定観念にとらわれず、他の研修方法などに関する情報を収集する。

事務局と各種団体の実行委員会との日常のコミュニケーション、情報交換を密にする。

住民が望む内容を察知し企画することと、スタッフとの結束を大切にする。

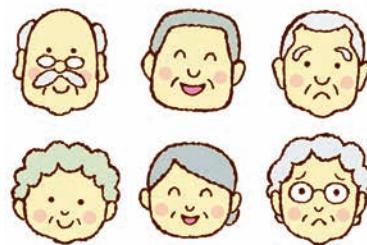
同僚や上司に相談して決めたり、チームで企画立案に取り組んだりする。

## 効果

- 人権に関する絵本の読み聞かせや討論などを取り入れることで、講義内容について理解の深まりが期待できる。
- ビデオ内容をもとに話し合う時間を設けることで、意見の交流やふれあいが生まれる場となる。
- 他の部署や市町との情報交換に加え、人権啓発担当の同僚や上司に相談することで、経験に基づいた新たな研修会へのヒントを得ることができ、企画への意欲と見通しをもつことができる。

## 課題 4 テーマの偏り

いろんなテーマを取り上げたい



### 現 状

#### 各市町アンケート調査の結果から

- ・関心が高いテーマばかりを取り上げるわけにはいかず、低いからこそ企画しなければならないが、そうすれば参加者数が限られるというジレンマがある。
- ・住民のニーズを取り入れ、どの人も起こり得る課題を取り上げたいので、地域のつながりや高齢者、子ども等のテーマが多くなり、取り上げないテーマが出てくる。
- ・全体を通して、よく取り上げられるものと取り上げられにくいものとに分かれている。

多いテーマ	少ないテーマ
・子ども 　・同和問題 　・高齢者 ・その他（人権全般、地域、命、多文化共生等）	・人身取引 　・性的指向 　・性同一性障害者 ・北朝鮮当局によって拉致された被害者等



### 課題を解決するための効果的なポイント

- 地域の課題や特色に結びつける

→ 実践例6  
(22ページ)

- 関心が低いテーマの情報を積極的に伝える

→ アイデア  
(24ページ)

- 専門的な機関や地域と連携する

→ アイデア  
(24ページ)

## 実践例6 地域の課題や特色に結びつける

準備

展開

まとめ

### 地域の歴史や地理的条件を「人権」の視点で見直す

日本海に面し韓国・朝鮮にも近い位置関係にある新温泉町には、歴史を振り返ると、山陰線の敷設工事で朝鮮の人たちが働いていたことや、漂着した韓国漁船を村民総出で救出した事実などがある。これらのことから、住民にとって身近なテーマとして、韓国・朝鮮に関する内容を地域学習会などで取り上げている。（→ 23ページの参考資料）

これに加えて、北朝鮮当局による拉致問題についても、地域に関わる重要な問題と捉え、住民が考える機会を設けることとした。

### 「人権を考えるつどい」で拉致被害者について考える

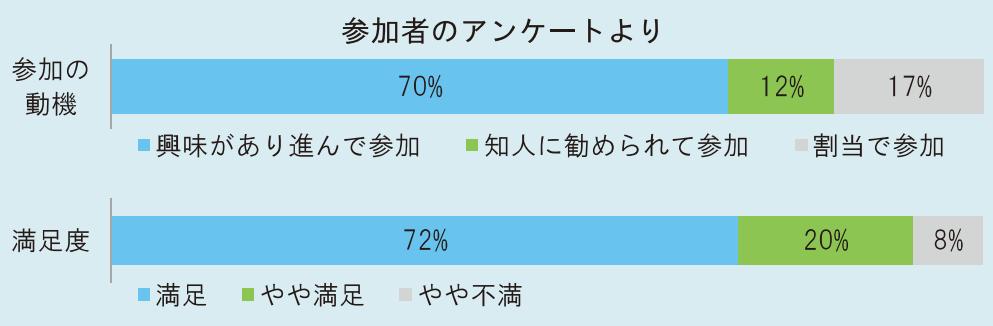
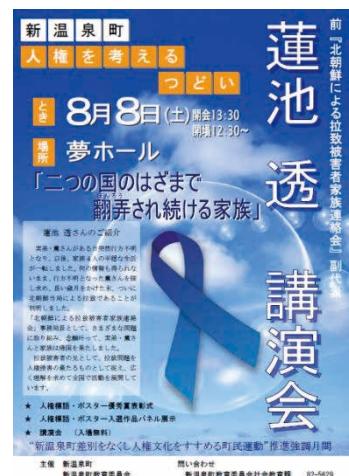
拉致問題は喫緊の課題であり、この解決を始めとする人権侵害問題について、関心と認識を深めていくことが大切である。

2006年（平成18年）6月に、「拉致問題その他北朝鮮当局による人権侵害問題への対処に関する法律」が施行され、国及び地方公共団体の責務等が定められたことを踏まえ、「人権を考えるつどい」で拉致問題をテーマに取り上げた。

### 事業評価より

今回の講演により、拉致問題について理解を深めるとともに、拉致被害者家族の思いや願いについて生の声を聞くことができた。その結果、参加者の満足度も高いものとなった。

また、（公財）兵庫県人権啓発協会より拉致問題のパネルを借用し、啓発活動も行った。



研修テーマの偏りを解消する一つの方法として、アンケート結果などを参考に地域の特色やニーズを把握し、それを活かした実践を工夫しながら行っている。その取組によって、住民が人権問題について関心を高め、幅広い知識を得ることにつながっている。

課題1  
参加者の減少課題2  
参加者の固定化課題3  
内容のマンネリ化課題4  
テーマの偏り課題5  
堅いイメージ課題6  
住民主体の会課題7  
効果の測定課題8  
リーダーの養成課題9  
講師の選定課題10  
効果的な広報

## 参考資料

### 住民によって作成された地域教材

韓国・朝鮮が但馬の地域と地理的に近く、それゆえ親交や課題などもあることを示す教材を作成し、地域学習会や研修会などで活用した。

#### 掲載資料

##### 「山陰線工事と朝鮮の人たち」

(概略)：1908年（明治41年）に山陰線敷設工事が始まり、1911年（明治44年）に全線が開通した。起伏の激しい香住と浜坂間は、難工事となり多くの犠牲者を出した。その中には朝鮮の人たちもいたが、民族の垣根なくその靈を慰めるため新温泉町久谷には『鐵道工事中職斃病没者招魂碑』<sup>しょくへいびょうぱつしづ</sup>が建てられている。また、西光寺の当時の住職も、差別することなくその靈を慰めた。そのお礼として、西光寺の横にはレンガ塀が建てられている。

#### （参加者の感想）

自分が住んでいる町のことがよく分かった。普通に香住に行けるのもこの人たちのおかげだということが分かった。

#### 掲載資料

##### 「海難事故と浜坂の人たち」

(概略)：1955年（昭和30年）12月27日の夜、韓国漁船漢江丸が船員10名を乗せ、三尾の海岸に漂着した。三尾の住民は総出で救助し、その様子は当時の新聞にも報道された。その翌年の11月5日に対馬沖で浜坂の照風丸がだ捕されたが、前年の救助における人と人とのつながりが解決を早めた。

#### （参加者の感想）

人にとって、支え合い、助け合い、協力はなくてはならないもので、それがなかったら人は生きていけないと思った。

参考：『平成22年度 地域に学ぶ人権学習資料集』（2011年）  
兵庫県人権教育調査研究協議会より



招魂碑について説明する地元講師



西光寺のレンガ塀の前で他市町の研修会



日本海に面する三尾地区

課題1  
参加者の減少課題2  
参加者の固定化課題3  
内容のマンネリ化課題4  
テーマの偏り課題5  
堅いイメージ課題6  
住民主体の会課題7  
効果の測定課題8  
リーダーの養成課題9  
講師の選定課題10  
効果的な広報

## アイデア

### テーマに関する情報を積極的に伝える

参加者の希望テーマに沿った研修会で…

- ・会場で、取り上げられにくいテーマに関するパネル展を行う。
- ・配布冊子に、その他の人権課題として、取り上げられにくいテーマに関する資料を載せる。

全戸に配布される広報誌やチラシなどに、取り上げられにくいテーマに関する記事を掲載する。

地域に関するアンケート結果などを活用し、研修が必要な重要課題を広報誌に発表するなど、迅速にそのテーマを取り上げる。

住民学習で不足しがちなテーマを行政側が情報提供し企画・提案するなど、テーマの分担や調整を図る。

### 専門的な機関や地域と連携する

人権担当部署として人権の視点を基本におさえながら、専門的な解決への研修会は担当部署に協力を依頼する。

同じテーマを他の関係部署でも住民向けに研修していないか、情報収集する。

「にほんごふれあい教室」など各テーマに当たる活動を、研修会や広報誌、夏祭りなど地域の行事を活用して紹介する。

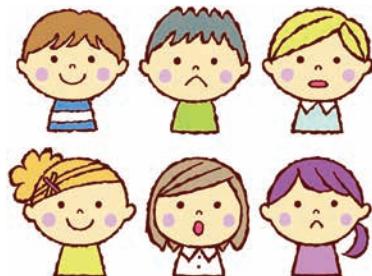
研修テーマを住民が企画する講座を立ち上げ、参加者同士が興味あることについて話し合うことで、新たなテーマを掘り起こす。

## 効果

- 希望テーマに沿った研修会の一部を活用することで、参加者に伝わる機会が増え、意識づけになる。
- 広報誌は全戸に配布されるため、生活に関する必要情報に合わせて、取り上げられにくいテーマについて幅広く情報提供ができる。

## 課題 5 堅いイメージ

親しみやすく  
身近なものにしたい



### 現 状

#### 各市町アンケート調査の結果から

- ・人権問題の多様化、複雑化に加え、「自分には関係ない」といった無関心や、「関わりたくない」といった忌避意識に対して、いかに効果的に働きかけるかが難しい。
- ・人権問題や研修が、自分自身の生活や生き方となかなか結びつかない。難しいなどマイナスイメージで捉えている。
- ・チラシに「人権」と表記することで、内容がいくらよっても敬遠する人がおり、柔らかいタッチの表現を入れるなどの工夫が必要である。
- ・人権と言えば被害者のためのものと考え、他人事と考えがちなところがある。



#### 課題を解決するための効果的なポイント

- 各団体のメニューをシリーズものに再構成する

→ 実践例7  
(26ページ)

- カフェのようなリラックスできる雰囲気を作る

→ 実践例8  
(27ページ)

- 身近さや親しみやすさをアピールする

→ アイデア  
(28ページ)

## 実践例7 各団体のメニューをシリーズものに再構成する

準備

展開

まとめ

### じんけんスタディツアー

実施にあたり、尼崎市と（公社）尼崎人権啓発協会、総合センターで実行委員会を立ち上げ、市報やホームページ、関係団体を通じて参加者を募集し、開講式を行った。

これまで、総合センターなどを拠点に地域での講演会や研修を実施しているが、場所や時間帯などの諸事情で参加できない方々に、自分の都合に合わせて参加できる環境を提供した。

実施機関が連携して情報を共有し、市全体の人権課題への取組を広く発信でき、人権意識の高い地域活動リーダーの育成にもつながった。

### カリキュラムの柱

- 1 地域の歴史を学ぶ  
講義と地域内のフィールドワーク
- 2 人権啓発講演会  
関係機関が実施する講演会への参加
- 3 人権啓発文化祭  
太鼓、ダンスなど、総合センターなどが実施する文化祭の見学
- 4 人権啓発キャンペーン  
子どもたちが作った人権標語の表彰式とパレード
- 5 その他の事業
  - ・映画「パートナーズ」の上映
  - ・児童虐待についてのワークショップ
  - ・「いじめ後遺症」をテーマにした講演とパネルディスカッション
  - ・「人権について考えてみよう～互いを尊重するかかわりのあり方～」をテーマにしたワークショップ
  - ・職員による総合センターの歴史や役割の案内 等



#### アンケートの回答より

- ・自分と世の中のつながりなどを改めて考えさせられました。
- ・自分の子どもの頃を思い出し、言えなかったことを代弁してもらったような気がしました。
- ・若い人と高齢の方と一緒に何かをしてみたい。色々なことを学べそうなので！
- ・多くの方が参加されていて、色々な意見が聞けて勉強になりました。
- ・各グループで虐待について考えるところがよかったです。

課題1  
参加者の減少

課題2  
参加者の固定化

課題3  
内容のマンネリ化

課題4  
テーマの偏り

課題5  
堅いイメージ

課題6  
住民主体の会

課題7  
効果の測定

課題8  
リーダーの養成

課題9  
講師の選定

課題10  
効果的な広報

## 実践例8 カフェのようなリラックスできる雰囲気を作る

### 準備

#### 一粒で二度おいしい 三線（さんしん）Cafe

南あわじ市人権教育研究協議会では、人権問題について理解を深め、音楽にも触れることができる、「一粒で二度おいしい」人権学習講座を企画した。

- ・カフェのようなリラックスした雰囲気の中で学習できるよう、会場づくりをする。
- ・年間5回講座。自由参加。
- ・講師との打合せ。
- ・飲み物の準備。
- ・グループ討議ができるよう、参加人数に合わせて机を配置。



#### はじめに楽しく考える

淡路市で長く人権教育・啓発に携わった戎剛さんを講師に招き、はじめに楽しく様々な人権問題について考える機会を設けた。話を聞くだけではなく、グループ討議も交え、より主体的な学びの時間となるようにした。

各回の後半は、戎さんの特技である沖縄の「三線」による演奏を取り入れ、カフェのようなリラックスできる空間で、お茶を飲みながら人権について語り合った。

##### 第1回 沖縄と人権問題

沖縄について人権の視点から考える。



##### 第2回 同和問題～寝た子を起こすな？～

部落差別の「寝た子を起こすな」という考え方の問題点について考える。

##### 第3回 外国人の人権～「共生社会」って言うけれど…～

身近な事例から「ともに生きる」社会について考える。

##### 第4回 障がい者の人権～前向きに生きるために～

視覚障がいのある三線唄者・葉満啓祐さんに三線を演奏してもらい、交流を深める。

##### 第5回 女性・子どもの人権

普段何気なく当たり前だと思っていることについて、少し違った視点から考える。

#### 参加者の感想より

- ・それぞれのテーマで学習することで、自分の意識の薄い部分がよく分かった。これからは意識をもって物事を見聞きしなければならないと思った。
- ・三線の音色を初めて知りました。知らない言葉がたくさん出てきましたが、ニュースや新聞で「あれっ」と気に留めるようになりました。

### まとめ

課題1  
参加者の減少課題2  
参加者の固定化課題3  
内容のマンネリ化課題4  
テーマの偏り課題5  
堅いイメージ課題6  
住民主体の会課題7  
効果の測定課題8  
リーダーの養成課題9  
講師の選定課題10  
効果的な広報

## アイデア

### 身近さをアピールする

テーマに関連したスキルアップの時間（インターネット → 迷惑メール対策などセキュリティーの設定、多文化共生 → 外国語の学習など）を設ける。

研修内容について…

- ・昔から伝わる童謡や歌を題材にする。 → 人権に関する様々なテーマが含まれていることに気づく。
- ・様々な国の料理や服装を題材にする。 → 違いや共通点を認め合うことと人権との関わりに気づく。
- ・インターネットや携帯電話を題材にする。 → 人権を大切にしたコミュニケーションの取り方に気づく。
- ・地域で親しまれた場所や施設を訪ねる。 → 自分が住んでいる地域と人権との関係に気づく。

研修会のタイトルや副題を見直し、親しみを感じやすいものに工夫する。

床にマットを敷いたキッズスペースを設置し、乳幼児が楽しめる絵本と積み木などを、安全面に留意しながら用意する。

インターネット上のトラブルや人権相談など、プライバシーに深く関わる内容を盛り込んだ研修会では、男女それぞれの講師を招くなどの配慮をする。

やさしく、雰囲気のよい会場で研修会を実施した後は、その様子を広く知ってもらい、人権研修会のイメージを和らげる。

## 効果

- 自分たちが普段から行っていることや関係のあるものと人権との関わりに気づくことで、イメージを和らげることができる。また、他人事ではなく自分たちのことである、という意識をもつことができ、研修への積極的な参加につながる。
- 会場の設備や雰囲気などを工夫することで、参加への抵抗感を和らげができる。

## 課題 6 住民主体の会

住民中心に  
企画・運営を任せたい



### 現 状

#### 各市町アンケート調査の結果から

- ・人権学習会を企画しても、住民の理解や参加の協力が得にくい自治会がある。
- ・実施体制として各自治会長及び役員が推進役を担うが、毎年のようにメンバーが変わるために、取組の姿勢にはばらつきがある。
- ・学習会は連合自治会などに委託しているが、義務的に実施される場合があるなど、事業の形骸化が懸念される。



#### 課題を解決するための効果的なポイント

- 住民の自主講座を行政がサポートする

→ 実践例9  
(30ページ)

- リーダー同士の横のつながりを強くする

→ 実践例10  
(31ページ)

- 住民が関わるきっかけを作る

→ アイデア  
(32ページ)

## 実践例9 住民の自主講座を行政がサポートする

### 準備

#### 講座開催までのスケジュールと役割分担

人権問題に関心のある住民が、住民の視点で自主的に講座を開くことを三田市が支援している。地域や学校、PTAなどの計画の参考となるよう、市による入門講座と位置づけた連続講座を開催し、講師や講座内容を提案している。講座の企画・運営に関する説明を徹底している。

- 4月 企画者会議の開催
- 5月 会場・日程・開催時間等の企画書を人権推進課に提出
- 6月 市民講座計画 PR  
↓  
随时、講座の開催

住民	人権推進課
<ul style="list-style-type: none"> <li>・講座の企画・運営、テーマの設定</li> <li>・講師の調整(事前打合せ)</li> <li>・講座ごとのチラシ原稿の作成、配布</li> <li>・レジュメ原稿の作成</li> <li>・感想文の提出</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・会場予約、会場費用等の支払い</li> <li>・講師依頼文の発送、謝金の支払い</li> <li>・チラシの印刷、配布</li> <li>・資料等の印刷、演題等の会場表示</li> <li>・参加者集約、受付名簿の作成</li> </ul>

### 展開

視察研修も実施している。講座案内も工夫し、チラシ、広報、ホームページ、FMラジオへの出演、公的機関への掲示を実施しているが、企画者間の連携により、情報を必要としている人々への直接呼びかけを実施し、情報が届くよう努めている。講座によっては、手話通訳や要約筆記を常設している。



失語症のメンバーによる音楽劇

### まとめ

#### 実施の結果

全18企画中8企画が「障害」をテーマにしており、当事者からの情報発信が目立ってきている。また、自主講座が住民の間に浸透することによって、地域リーダーの育成や講師情報の蓄積、紹介にもつながっている。

#### 講座のテーマ（抜粋）

- ・音楽劇「創作かさじぞう」
- ・「聴いてもらうとココチイイ」
- ・「親も しんどいねん」
- ・「いじめの現状と大人としての支援の在り方」
- ・「発達障がいと進路選択」
- ・「こころが軽くなる実践講座」

課題1  
参加者の減少

課題2  
参加者の固定化

課題3  
内容のマンネリ化

課題4  
テーマの偏り

課題5  
堅いイメージ

課題6  
住民主体の会

課題7  
効果の測定

課題8  
リーダーの養成

課題9  
講師の選定

課題10  
効果的な広報

## 実践例10 リーダー同士の横のつながりを強くする

準備

### 人権教育アシスタントの委嘱

人権教育アシスタント（人権研修に関する地域のリーダー）に関する要綱に基づき、自治会や学校園から推薦を受け、たつの市教育委員会の承認を経て、第1回研修会の前に委嘱状交付式を行う。

展開

### 研修会の実施（計4回）

最初に経験年数が偏らないようにグループ分けをし、4回の研修会をこのグループで活動することにより、アシスタントの横のつながりづくりを進める。

第1回 人権教育アシスタントの役割や住民学習会等についての説明

講 演：「いのちを考える」

講 師：兵庫大学講師 西脇 修さん



第2回 参加型学習の進め方についてⅠ

テーマ：人権啓発支援資料「十人十色」の活用

講 師：ライフデザインメンバー



第3回 参加型学習の進め方についてⅡ

テーマ：人権啓発支援資料「こころのスケッチ」の活用

講 師：ライフデザインメンバー

第4回 自治会住民学習会の振り返り（意見交流）

人権啓発映画「ほんとの空」の視聴と学習会実施事例

まとめ

### 研修を活かす場の提供と実践の取りまとめ

人権教育アシスタントを中心に、各自治会の実態に合わせて自治会住民学習会を企画・運営してもらう。各自治会より計画書・報告書を提出してもらい、それをまとめて実施報告書を作成し、次年度に活用する。

#### 参加したアシスタントの感想

今年からアシスタントになって不安だったが、何回か研修することによって進め方が分かったので、自治会長と相談して学習会を計画したい。

#### 実施者の感想

研修を重ねるうちに、経験豊富な方から住民学習を進めるまでの工夫を聞いたり、悩みや問題点などを相談し合ったりすることもできるようになり、人権教育アシスタント同士のつながりづくりができた。

## 参考資料

平成24年度（後期）自治会住民学習報告書				
自治会名	□□自治会	報告者氏名	□□ □□	
日 時	平成25年3月3日（日） 9:00～11:30			
場 所	□□公民館			
テーマ	高齢者のいきいきした暮らしのために～高齢者の人権～			
助言者等	助言者の氏名（自治会長 □□ □□） 1 人権教育アシスタント ②それ以外 3 助言者なし 主な企画担当者（人権教育アシスタント □□ □□） 当日の進行担当者（人権教育アシスタント □□ □□）			
教 材 等	番号に○をつけてください。（複数可） ① 啓発資料を使った人権学習 (教材名 生-28) 2 その他 ( )			
具体的な内容（タイトル等）				
高齢者がいきいきと暮らすために できること ・「安心」のある暮らし ・「楽しさ」のある暮らし ・「生きがい」のある暮らし				
☆質疑や内容、成果やよかつたところ 自治会の高齢化・少子化が進む中で、高齢者世帯も子育て世代も安心して暮らすことができる自治会づくりを目指して、そのための具体的な方策を話し合った。高齢者世帯が安心して暮らすことができるよう、役員等の従来からの慣習を見直した。				
☆まとめと今後の課題 今後も、高齢者の立場に立って、つながりを大切にし、自治会員が寄り添い合いながら、全ての世代がいきいきと暮らすことができる地域社会を目指していきたい。				
自治会住民数	197人	世帯数	52戸	参加者数 45人

### 計画書の項目例

- ・自治会名、アシスタント名
- ・日時、場所
- ・テーマ、人権の視点
- ・助言者の氏名、所属
- ・企画担当者、進行担当者
- ・教材、ビデオタイトル
- ・資料の内容、話し合いの方法
- ・アシスタントの依頼先
- など



## アイデア

### 住民が関わるきっかけづくり

地域づくりや活性化に関する他機関の事業を活用し、人権の視点を取り入れながら地域に関わることができる場を提供する。

講座の企画・運営を役員一人ではなく複数で分担し、できるだけ多くの方に参加していただく。

運営のお手伝いを分担してお願いする。

研修会での補足説明（民生委員・児童委員）、プロジェクトの操作（隣保ごとの輪番制）、グループ学習の記録係（子ども会）など

## 効果

- できるだけ多くの住民が関わる機会を作ることで、ネットワークの広がりが期待できる。
- 地域の人権課題を知り、解決策を考える中で、自分も社会を担う一員であるという実感をもつことができる。
- 運営への参加を繰り返すことにより、その集団への所属意識が生まれ、色々な行事への参加意欲も高まることが期待できる。

課題1  
参加者の減少課題2  
参加者の固定化課題3  
内容のマンネリ化課題4  
テーマの偏り課題5  
堅いイメージ課題6  
住民主体の会課題7  
効果の測定課題8  
リーダーの養成課題9  
講師の選定課題10  
効果的な広報

# 課題 7 効果の測定

いろんな評価方法を  
知りたい



## 現 状

### 各市町アンケート調査の結果から

- ・人権研修は人の意識に働きかける事業であり、研修の効果を測る十分な「ものさし」がないことが課題となっている。
- ・市民意識調査の調査項目の中から「指標」を設定し「目標値」を設けるなど、研修の効果を測っていく必要があると感じている。

各市町が実施した研修会のアンケート調査の主な質問項目（H23・H24）

基本事項	学習内容などについて	研修会などについて
・年齢	・感想等（自由回答）	・知ったきっかけについて
・性別	・内容への評価・満足度（選択）	・参加経験について
・職業	・その他の意見や希望等（自由回答）	・その他の啓発事業の認知度



## 課題を解決するための効果的なポイント

- 地域の課題に合った評価項目や分析方法を考える

→ 実践例11  
(34ページ)

- アンケートの実施方法や内容を再検討する

→ アイデア  
(36ページ)

- 感想や各種データを総合し客観的な視点で判断する

→ アイデア  
(36ページ)

## 実践例11 地域の課題に合った評価項目や分析方法を考える

準備

展開

まとめ

### 人権に関する意識調査の結果を踏まえて

『人権に関する新温泉町民の意識調査』の中で、「人権が保障される社会を実現するために、行政の施策として特に重要だと思われるもの」を聞いたところ、「地域社会において人権教育・啓発活動を充実させる」が46.6%と1位になった。

そこで、人権教育・啓発活動をより充実させるために、効果を測る評価方法を改善した。

### 「人権を身近に感じ、関心をもつこと」を目標に

評価方法の改善にあたり、目標を明確にした。意識調査からは、人権や差別問題に対する意識について、「非常に関心がある」と「まあ関心がある」と答えた人は全体で47.4%、「あまり関心がない」と「全く関心がない」は51.0%と、2人に1人は人権に対して関心が低いことが明らかになった。

そこで、人権を自分自身のこととして身近に感じ、その後の生活に活かすことができるようになることを目標とした。

### 大切なキーワードは「感動」「納得」「実感」

目標を踏まえ、評価の対象となる「人権を考えるつどい」を住民主体の内容に変えた。そのアンケートを比較、分析したところ、事業で学んだ内容を今後の生活に活かすためには、「感動」「納得」「実感」が重要だと分かった。

- 1 「深く心に響き、感動することはありましたか」の質問と、「本日の内容は知人や友人に教えてあげたり、今後の生活に活かせますか」の質問をクロス集計した。

(単位：人)

	大いに活かせる	少し活かせる	あまり	全く
大いに感動	26	18	1	0
少し感動	2	25	1	0
あまり	0	5	6	0
全く	0	0	0	1

「感動」の度合いが高いほど、今後の生活に活かせると答える人が多い。

- 2 「『あっそうか』『なるほど』と感じたり、気づいたことがありますか」の質問と、「本日の内容は知人や友人に教えてあげたり、今後の生活に活かせますか」の質問をクロス集計した。

(単位：人)

	大いに活かせる	少し活かせる	あまり	全く
大いに納得	18	10	0	0
少し納得	8	34	2	0
あまり	0	4	6	0
全く	0	0	0	1

「納得」や「実感」の度合いが高いほど、今後の生活に活かせると答える傾向がある。

課題1  
参加者の減少課題2  
参加者の固定化課題3  
内容のマンネリ化課題4  
テーマの偏り課題5  
堅いイメージ課題6  
住民主体の会課題7  
効果の測定課題8  
リーダーの養成課題9  
講師の選定課題10  
効果的な広報

## 参考資料

### 参加者アンケートの例

全ての項目に「自由回答欄」を設定した。  
裏面にも感想欄を印刷し、幅広い意見を収集した。

#### 新温泉町人権を考えるつどい アンケート用紙

本日は、新温泉町人権を考えるつどいにご参加いただきありがとうございます。今後の人権を考えるつどい並びに人権啓発活動等をより充実したものにするために、参加いただきました皆様のご意見、ご感想を賜りたく以下のアンケートにご協力いただきますようお願い申し上げます。なお、頂戴いたしましたご意見、ご感想は、啓発紙等に掲載させていただくこともございますのであらかじめご了承ください。

(あてはまるものに○をつけてください。)

#### 性別

女性 男性

#### 年代

10代以下 20代 30代 40代 50代 60代 70代 80代 90代以上

#### 1 本日のつどいへは、どのようなきっかけで参加されましたか。

- ・興味があり進んで参加
  - ・友人や家族に勧められて
  - ・職場等から割り振られて
  - ・出演者として
- (自由回答)

#### 2 本日のつどいは、あなたにとっていかがでしたか。

- ・満足
  - ・やや満足
  - ・やや不満
  - ・不満
- (自由回答)

#### 3 今までに人権学習会や講演会等に参加したことはありますか。

- ・5回以上ある
  - ・3・4回ある
  - ・1・2回ある
  - ・今回が初めて
- (自由回答)

#### 4 人権や差別問題について関心はありますか。

- ・大いにある
  - ・少しある
  - ・あまりない
  - ・全くない
- (自由回答)

#### 5 本日のつどいの時間設定はいかがでしたか。

- ・まだまだ長くてよい
  - ・もう少し長くてよい
  - ・ちょうどよい
  - ・もう少し短くてよい
  - ・もっと短くてよい
- (自由回答)

#### 6 深く心に響き、感動する（すごいと感じた）ことはありましたか。

- ・大いにあった
  - ・少しあった
  - ・あまりなかった
  - ・全くなかった
- (自由回答)

#### 7 「あっそうか」「なるほど」と感じたり、気づいたことがありますか。

- ・大いにあった
  - ・少しあった
  - ・あまりなかった
  - ・全くなかった
- (自由回答)

#### 8 本日のつどいで「人権」を感じることはできましたか。

- ・大いにできた
  - ・少しできた
  - ・あまりできなかった
  - ・全くできなかった
- (自由回答)

#### 9 本日の内容は知人や友人に教えてあげたり、今後の生活に活かせますか。

- ・大いにできる
  - ・少しできる
  - ・あまりできない
  - ・全くできない
- (自由回答)

以前と同じ項目を残し、数年のデータを比較した。

来年度に向け、参加者層の実態把握に利用しようと設定した。

「2」の満足度をより詳細に調べるために設定した。  
クロス集計に利用し、研修効果を高めるために参考にした。

この事業の目標と、事業内容を今後に活かせるかについて問う項目を設定した。

ご協力ありがとうございました。その他、お気づきの点等は裏面に記載してください。

課題1  
参加者の減少課題2  
参加者の固定化課題3  
内容のマンネリ化課題4  
テーマの偏り課題5  
堅いイメージ課題6  
住民主体の会課題7  
効果の測定課題8  
リーダーの養成課題9  
講師の選定課題10  
効果的な広報

## アイデア

### アンケート調査の再検討

アンケート調査の方法や内容を見直す。(対象は誰か、どのように行うかなど)

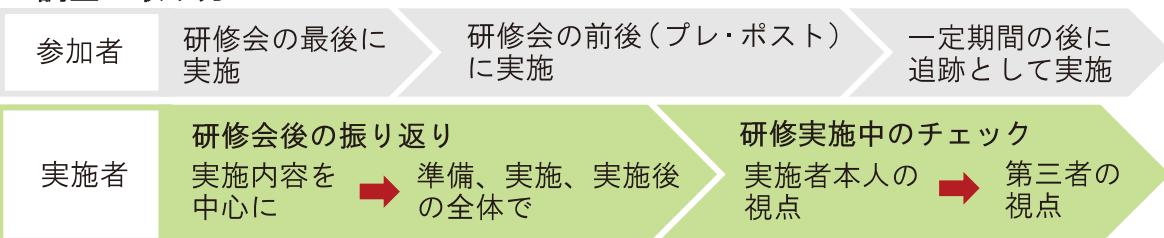
質問内容や項目が予め設定されたインタビューや面接などを実施する。

定員と比較した参加率や再参加率、参加者数の経年変化、広報の方法や回数などの客観的なデータを活用する。

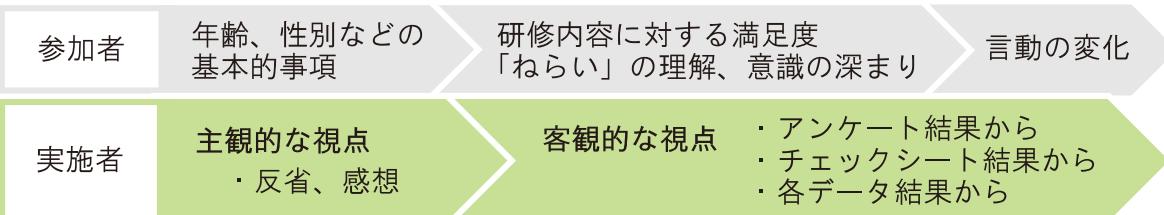
講師以外に事務局や他の講師にも研修を観察してもらい、事後に検討会を開く。

参加者と実施者に第三者を交えて、評価に関する検討会を開く。

#### <調査の取り方>



#### <調査項目のレベル>



### 調査項目例 (35ページの項目に加えて)

- ・今回の研修会を何で知ったか。
- ・参加して、人権問題についての関心や理解は深まったか。
- ・参加して、何か行動しようと思ったか。
- ・今後もこのような研修会を行うべきだと思うか。など

## 効果

- これまで使用しているアンケートを再点検し、リニューアルすることで新たな視点が加わった評価が可能になる。
- 各種データの活用や第三者を交えた意見交換などを行うことで、より客観的な評価を得ることができる。

## 課題 8 リーダーの養成

リーダー養成方法の  
具体を知りたい



### 現 状

#### 各市町アンケート調査の結果から

- ・地域のリーダーがいないため地域の課題と結びつけた学習に発展しにくく、事業そのものを疑問視する声も年々強まっているように感じる。
- ・地区で指導者を選び指導体制を組むところもあるが、指導者を養成しない自治会がほとんどである。
- ・学習会の助言者としての「人権啓発推進員」が減少している。担っていただける体制づくりや資質の向上が必要である。



#### 課題を解決するための効果的なポイント

- リーダー自身が体験し資質や能力の向上を図る

→ 実践例12  
(38ページ)

- 研修会の実践事例や記録の共有でスキルアップを図る

→ アイデア  
(39ページ)

- 研修会の参観など他の市町や団体のノウハウを学ぶ

→ アイデア  
(39ページ)

## 実践例12 リーダー自身が体験し資質や能力の向上を図る

**準備**

**展開**

**まとめ**

### 新事業と連携する

男女がともに自治会役員を担うことで、地域での活動がより活発になることをねらいとして、小野市では「自治会役員女性参画推進事業補助金制度」を創設した。

そこで、人権啓発員（人権研修に関するリーダー）が中心となり、男女共同参画推進をテーマに朗読劇「男と女・人と人」の台本を作り、リーダー講習会等で活用してもらった。内容には家事、子育て、自治会への参加など、身近な話題を取り入れた。

### 人権啓発員が劇を披露する

地域リーダーを育てるにはまず、人権啓発員が率先して、啓発の視点、学習会の持ち方などを提示することが必要である。堅苦しくなりがちな学習会を、できるだけ地域住民に身近なものとして捉えてもらえるよう、朗読劇に取り組んでもらった。



### リーダー講習会で実際に劇を体験する

実際に劇をしてもらい、普段の生活とは違った立場で演じ考へてもらうことで、新しい価値に触れる機会となった。また、劇の後に感想を共有し、今後の各町での学習会でどのように取り組むかについて考えた。



### 地域住民にも劇を体験してもらう

リーダー自身の体験を活かして地域につなげた。男女共同参画をテーマにした地域での取組であったが、前向きな意見交換により、自治会での女性役員の登用に結びついている。

#### 参加者へのアンケートから

Q. この劇では、若い世代で家事・育児を共同でしていますが…?

A. 男女で共同ですることはいいことだなあと思います。

Q. この劇では、世代間に考え方の相違がありますが、あなたはどう思われますか？

A. 相手を思いやる気持ちがあれば、助けられる気がします。

Q. 共に輝く地域社会をつくるためには、どんなことをしたらいいと思いますか？ また、自分にも出来そう、私も是非やってみよう、と感じられた事は何ですか？

A. 風呂を洗うこと。

あいさつをする。

自分のできることを増やしていきたい。

課題1  
参加者の減少

課題2  
参加者の固定化

課題3  
内容のマンネリ化

課題4  
テーマの偏り

課題5  
堅いイメージ

課題6  
住民主体の会

課題7  
効果の測定

課題8  
リーダーの養成

課題9  
講師の選定

課題10  
効果的な広報

## アイデア

### 各市町で育む

「リーダー養成」のための講座を計画的に開催する。

- ・地域の現状やニーズに関する理解
- ・講演会やコンサートへの参加
- ・人権に関する施設の見学
- ・ビデオ上映を活用した研修の体験
- ・参加型体験学習（ワークショップなど）の実践  
　講師を招き実際に体験する → 自分たちで実践を繰り返す　など

各地区で行った研修会のうち、参加型体験学習（ワークショップなど）や効果的だった取組を実践事例として冊子にまとめ、リーダー間で情報を共有する。

実践事例集とセットで、研修会の準備物や写真などの記録を保存し、誰もが講座を進行できるようにするとともに、改善点などを書きとめたものも含めて、次年度へ引き継ぐ。

### 他の市町から学ぶ

他の地域で行っている参加型体験学習会などに参加し、リーダーに必要とされる様々な手法を学ぶ。

他の地域のリーダー養成に関する指導者や地域リーダーとしての実践者を講師に招き、具体的なノウハウを蓄える。

## 効果

- 様々な手法を学ぶことで、新しい取組やより深みのある取組を企画し、運営することができる。
- 自分が実際に体験することで、ワークショップなどの在り方を肌で学び、地域での学習に活かすことができる。
- 準備物や写真を含む実践をまとめることで、初めてリーダーとして取り組む人にとっても進行などの参考になり、次年度への改善が望める。
- 他の地区の様々な取組に触れることで、研修会の在り方やリーダーとしての心構え、進め方を学ぶことができる。

# 課題 9 講師の選定

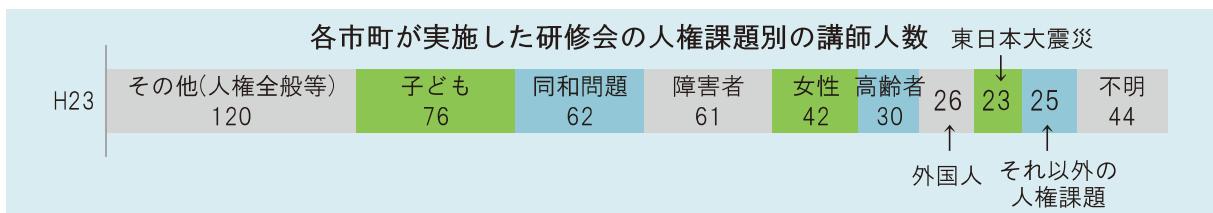
どこに、誰を頼めばよいのか  
知りたい



## 現 状

### 各市町アンケート調査の結果から

- 人を集めようすると知名度の高い講師を選ぶことになり、担当者のねらいと合わない場合がある。
- よほどの著名人でない限り、参加者を多く集めることができない。
- 予算の制約もあり、魅力ある講師の選定に苦慮している。



## 課題を解決するための効果的なポイント

- 統一したテーマで学習し地元で講師を育てる

→ 実践例13  
(41ページ)

- 他の市町や団体などの講師情報を可能な限り収集する

→ アイデア  
(42ページ)

- 講師の情報を収集し講師一覧表を作成する

→ アイデア  
(42ページ)

課題1  
参加者の減少

課題2  
参加者の固定化

課題3  
内容のマンネリ化

課題4  
テーマの偏り

課題5  
堅いイメージ

課題6  
住民主体の会

課題7  
効果の測定

課題8  
リーダーの養成

課題9  
講師の選定

課題10  
効果的な広報

## 実践例13 統一したテーマで学習し地元で講師を育てる

準備

展開

まとめ

### 教科書の部落史表記の変化を踏まえた研修会を企画する

ここ10年ほどで、部落史や身分制度に関する教科書表記が大きく変わった。これから学習を進める子どもたちと、大人たちの歴史認識のギャップを埋めるため、2年間で「教科書の部落史表記の変化」をテーマとした研修会を実施することにした。予算上、研究の第一人者を常に招くことができないため、長期計画を立て、講師の育成を図った。



まずは、教科書が身近にある「教職員やPTA」を、続いて「地域の人権啓発指導員や推進員」（人権研修に関する地域のリーダー）を対象に行い、その後、自治体の職員を対象に地元講師が研修会を行うことにした。

### テーマを統一し、継続して実施することで講師の育成を図る

講師は、近くの自治体である鳥取県から招いた。鳥取環境大学教授の外川正明さんに「部落史に学ぶ」と題し、講演をお願いした。



続いて、大阪市立大学人権問題研究センター特別研究員の上杉聰さんに「これでなっとく！ 部落の歴史～なぜ教科書記述が変わったのか～」と題し、講演をお願いした。

### 人権啓発指導員が講師となる

目的がはっきりとしていたため、継続した研修を行うことができた。新温泉町の人権啓発指導員約20名は、2年をかけてビデオ研修や講演会に參加した。



そして、自治体職員全員対象の人権研修会では、分担しながら職員の前で講演をすることができた。

**1 教職員・PTA**

**2 人権啓発指導員**  
学習会の講師役

**3 人権教育推進員**  
学習会のサポート役



**自治体職員  
地域住民**

## アイデア

### 情報を可能な限り収集する

他の市町などで、これまでどのようなテーマで、どのような講師を呼んできたのかを、広報誌や電話、面接などで確認する。  
(講師一覧表の有無やアンケートの感想、必要経費等についても情報収集しておく)

他機関の情報誌や、インターネットなどを活用した講師派遣情報などを参考に、幅広い講師陣の中から希望のテーマに関する講師を選定する。

自治体を超えた連携を図り、人権に関する団体から情報収集するなど、協力しながら講師に関する情報交換を行う。

身近なテーマや課題に関する体験談が可能な方や、地域で実際に活動している方を講師に選ぶ。

できるだけ実際に講演会等に参加し、自分で確認できる機会を設ける。

### <講師一覧表の例>

講師名	人権課題、分野等	講演会・演題名、内容等 (実施日)	実施市町名	講師の所属先、肩書等
人権 まなぶ	人権全般	テーマ 「地域社会における糸と人権」 (5/18) 内 容 ボランティア活動に関する体験談を中心とした、人と人とのつながりづくりについての講義	神戸市 人権啓発課 TEL ...	(公財) 兵庫県人権啓発協会 TEL ...
:	:	:	:	:
:	:	:	:	:

## 効果

- 情報収集によって、一つのテーマにおいても多様な講師の情報を得ることができ、担当者として選択の幅が広がる。
- 講師依頼の幅が広がることで、住民にとってより身近な人選が可能となり、研修会への関心の高まりと参加者の増加が見込まれる。

課題1  
参加者の減少課題2  
参加者の固定化課題3  
内容のマンネリ化課題4  
テーマの偏り課題5  
堅いイメージ課題6  
住民主体の会課題7  
効果の測定課題8  
リーダーの養成課題9  
講師の選定課題10  
効果的な広報

# 課題 10 効果的な広報

たくさんの人伝え  
来てもらいたい



## 現 状

### 各市町アンケート調査の結果から

- ・ 広報の重要性は高く、より効果の高いチラシの配布先や配布方法がないか検討している。
- ・ 住民への積極的な広報の在り方について検討している。
- ・ 講座内容の紹介を充実させる、参加者の感想を紹介する、告知を工夫するなど、情報の受信と発信の双方向の取組が必要である。
- ・ 講師の話がすばらしいものであっても、参加した人にしか伝わらない。



### 課題を解決するための効果的なポイント

- 多くの人に伝えるために多様な広報手段を活用する

→ アイデア  
(44ページ)

- アンケート結果や感想を参加者へフィードバックする

→ アイデア  
(44ページ)

- 地域の行事を活用し情報を伝え合う

→ アイデア  
(45ページ)

課題1  
参加者の減少課題2  
参加者の固定化課題3  
内容のマンネリ化課題4  
テーマの偏り課題5  
堅いイメージ課題6  
住民主体の会課題7  
効果の測定課題8  
リーダーの養成課題9  
講師の選定課題10  
効果的な広報

## アイデア

### 多様な広報手段を活用する

広報誌

新聞広告（無料掲載欄など）

チラシ

地区の回覧板

インターネット

ホームページ

情報の発信

メール

情報の双方向の交流

参加者をメールリストへ → 次回の案内  
(生まれたつながりを絶やさず強める)

ラジオ

テレビ、  
ケーブルテレビ

啓発グッズ（ティッシュ、クリアファイル、ボールペンなど）

- ・研修日程などを書き込む。
- ・街頭活動の他、学校園や地域の行事など、普段参加の少ない世代層にも行きわたるようとする。

### 対象を絞る

学習意欲の高い高齢者大学や女性の団体など

テーマと関連の深いNPOや大学など

共同開催によりネットワークが活用できる各種協議会や子ども会など

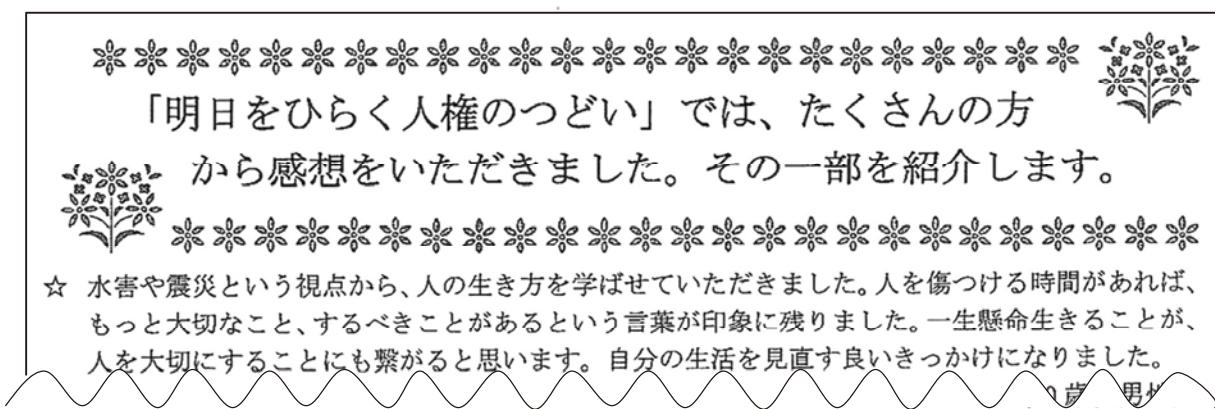
集中的な直接訪問

### アンケート結果のフィードバック

結果や感想などを、広報誌などで紹介する。 → 実施者は住民の情報源が分かり、住民は研修を身近に感じる。

#### 加古川市の例

※実施後の丁寧な対応が、次回の広報につながる。



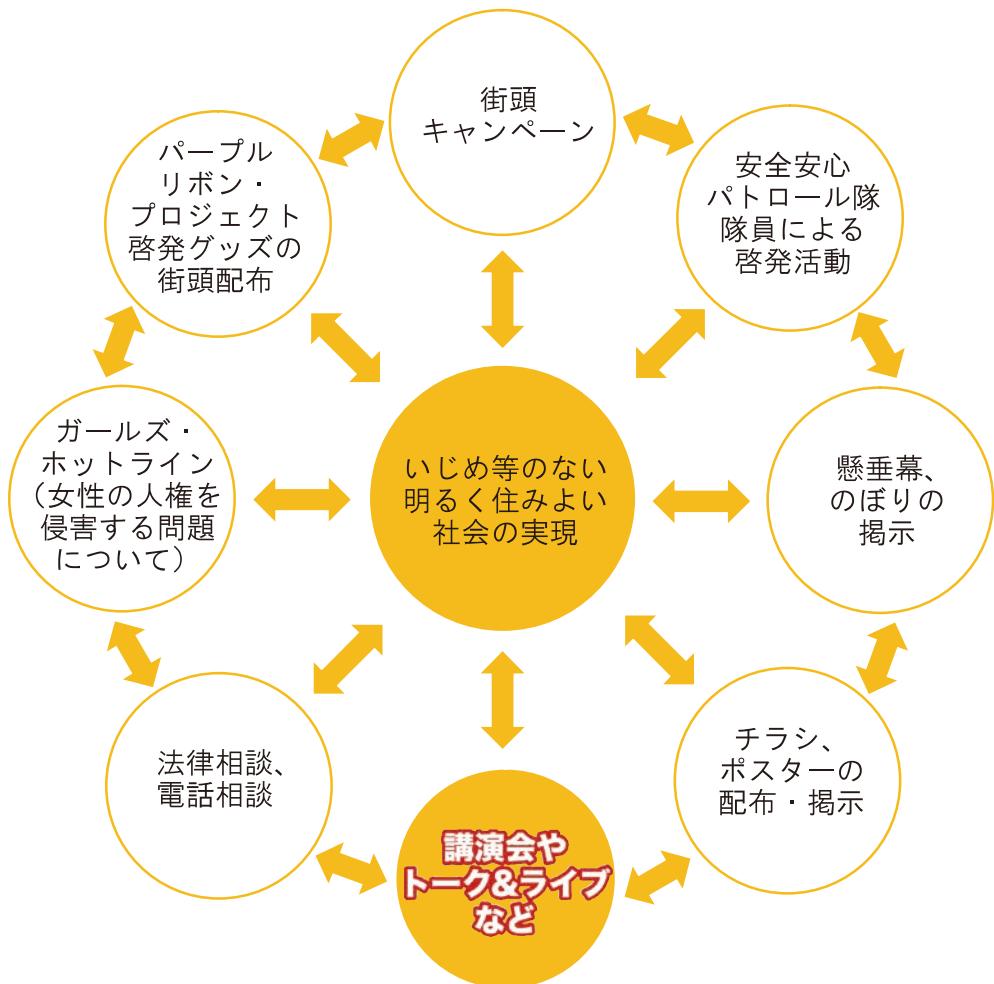
## アイデア

### 行事を活用する

市町や地域主催の行事などの取組の中で広く呼びかける。  
(グッズ配布や「口コミ」などの活用)

#### ONOいじめ等防止ウィークの取組（小野市）

※行事の各担い手が、研修会などの情報を共有し伝え合う。



### 効果

- 多様な手段を活用することで情報を伝える機会が増え、多くの人に知つてもらうことができる。
- 学習意欲のある集団に重点的に周知することで、その波及効果や口コミにより参加者の増加が期待できる。
- あらゆる場で広報活動を実施することで、多くの住民が関わることになり、人権啓発をはじめ地域づくりにもつながる。

人権研修ハンドブック  
－担当者の悩みや課題に応えるアイデア集－

発行日 平成26（2014）年3月  
事務局 公益財団法人 兵庫県人権啓発協会  
〒650-0003  
神戸市中央区山本通4丁目22-15  
電話（078）242-5355  
印 刷 (株)旭成社

# 人権文化をすすめよう

一人ひとりが大切にされ、いきいきと輝いている社会はみんなの願いです。



この冊子は再生紙を  
使用しています